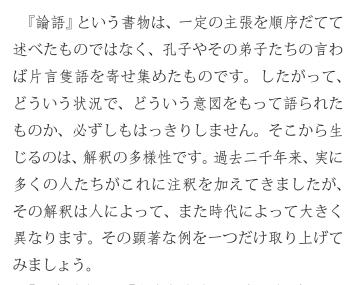
Lún yǔ piàn duàn 论 语 片 断 『論語』あれこれ 41

逝者如斯夫

逝く者は斯くの如きか〈子罕第九〉

桜美林大学名誉教授 / 孔子学院講師 植田渥雄



「子在川上曰:『逝者如斯夫!不舍昼夜』(Zǐ zài chuān shàng yuē: Shì zhě rú sī fú! Bù shě zhòu yè)」(子、川上に在りて曰く「逝く者は斯くの如きか。昼夜を舎かず」)〈子罕第九〉。孔子は川のほとりに立って言いました。歳月はこの川の流れのように去って行くのかなあ。昼も夜も留まることなく、と。「川上」とは川のほとりのことです。「逝」は行くという意味ですが、多くの場合、永遠に帰らないという意味に使います。「夫」は強めの助詞です。「舍」は「捨」と同じで、そのままに捨て置くという意味です。したがって「不舍」とは、そのままにして置かない、つまり絶えず流動してやまない、ということになります。孔子の言葉はこれだけです。前後の脈絡は全くありません。

孔子が川の流れを見て、いつになく強く心を動かされ、深い感慨を催したことは間違いありませんが、その感慨の内容については、何も語っていません。多用な解釈が生まれる所以はここにあります。

先ず魏晋南北朝時代の代表的な解釈を見ます と、次のようになっています。

①人は永遠に生きるわけではない。たとえ大きな

功績をあげたとしても、あっという間に時は過ぎ去ってしまう。この点については孔子も一般人も同じこと。川の流れに臨んで深い感慨を催すのは当然である。

②孔子は高い理想を掲げ、乱れた社会を正すため に力を注いできたが、社会は一向に良くならな いまま、時は徒に過ぎていく。孔子はこの現状 を嘆いている。

前者は世の無常を嘆いたもの、後者は世直しの 困難さを嘆いたもの、ということができますが、 両者に共通するキーワードは「嘆き」です。日本で は古くから「川上之嘆」という四字熟語で親しまれ てきました。ただ、孔子の思想に「無常観」はそぐ わないと考える人も多いのではないでしょうか。 その点では、後者の方が納得しやすいようにも思 われます。

さらにもう一つ、それは次のようなものです。

万物は絶え間なく変化し、止まることがない。 これこそが宇宙の根本原理である。この原理は深 遠なもので、なかなか理解しにくいが、川の流れ を眺めることによって、誰しも容易に身に感じ取 ることができる。人は皆、特に学問に志す者は、こ の原理にのっとり、日夜奮励努力しなければなら ない。孔子は川の流れに譬えて、このように勤勉 の尊さを教えている。これは宋代に流行した解釈 です。いわゆる朱子学は、このような解釈がもと になっています。

以上三つの解釈のうちどれが正しいでしょうか。このほかにも多様な解釈が可能ですが、その答えは読む人の心の中に在るはずです。

(わんりい「中国語で読む漢詩の会」講師)